

第二期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（第八回）
議事要録

日時 平成24年11月19日（月）午後7時～午後9時10分

場所 クリーンセンター3F 見学者ホール

出席 小澤紀美子会長、新垣俊彦委員、金子和雄委員、島森和子委員、高石優委員、飯村雅洋委員、山崎君枝委員、平田昭虎委員、岡田敬一委員、千綿澄子委員、木村文委員、藻谷征子委員、塩澤誠一郎委員、狩野耕一郎委員、越智征夫委員、高橋豊委員、村井寿夫委員、早川峻委員、興相信子委員、木村浩委員

事務局（馬場主査他）

コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）傍聴者3名、記者0名

欠席 高橋健一委員

配布資料 1. 次第、2. エコプラザ（仮称）今後の方向性について、3. エコプラザ（仮称）フロアガイド（参考イメージ）、4. 第3回作業部会参加者意見 要旨、5. 運営主体のイメージ、6. エリア整備・周辺整備、7. 新武蔵野クリーンセンター（仮称）緑化の考え方、8. タウンウォッチングルート案、9. 緑町コミセンリニューアルの提案、9. 生活環境影響調査書説明会の日程、10. 生活環境影響調査書（案）説明会の記載について

1. エコプラザ（仮称）の考え方（まとめ）

- ・事務局よりエコプラザの考え方の整理、フロアガイドイメージ、作業部会における主な意見、運営主体のイメージについて説明があった。

（以下、質疑）

- ・委員 武蔵野市として運営主体の具体的なイメージがあるとよいのではないか。武蔵野市内にも様々な環境団体があるので、これらの団体と話し合いながらネットワークを活かした柔軟な運営形態を考えていくことを希望する。
- ・会長 市が直接運営するという形にはならないと思うが、運営主体についてよりよいものがないかどうか今後議論していくべきだろう。
- ・委員 エコプラザは、エコやりサイクルに関する様々なことをいつでも相談できるような場所になればよいとイメージしている。環境フェスタ参加団体などのネットワークを利用すると市民の活動が活性化して学び合える場になるのではないか。
- ・会長 行政だけだと固くなりがちなので、NPO・市民団体の柔軟性・多様性・専門性といったものを生かして束ねていける組織が、「新たな公共」として出てくるかということが重要だ。
- ・委員 世田谷ものづくり学校は起業の促進を使命として運営を行っている。アーツ千代田は、アートに関する区内の支援拠点としての役割を求められている。指定管理者の場合は、自治体から運営内容の提示を受けて、それに沿って管理を行うので、担う役割にそれぞれ違いがある。行政直営の場合でも、エコプラザの考え方に沿った組織を市の内部で作し、事業内容を担える人材を嘱託として採用するという考えられ、柔軟に対応することも可能だとは思う。し

かし、まずは「エコプラザで何をするか」という哲学を持った上で、運営主体について検討すべきと考える。哲学や理念が十分に共有できていないままに建物のレイアウトを作成してしまっている印象がある。エコプラザに入れる機能と、その根拠づけが重要。リペア工房をリサイクル機能として導入するのは、スペース的に中途半端である。環境啓発の拠点としてエコプラザがあって、その環境啓発機能の一環としてリペア工房を設置するならば良いと思う。環境啓発のための拠点を作るといふ原点は忘れるべきでない。

プラットホームというコンクリート躯体で囲まれた空間を活かすような機能の在り方を検討することも必要ではないか。例えば、リサイクルのワークショップを行える場所などが考えられる。

環境啓発については、市内の他施設とも連携していく必要がある。環境啓発として行う具体的な事業を考え、その事業を動かすための拠点としてエコプラザがあるという発想だと思う。様々な用途に対応できる使い勝手の良い空間を用意することが必要だろう。

- ・**会長** 当初から議論してきたように、エコプラザは低炭素社会のモデルになることを目指す上での環境啓発の拠点であることは確認しておきたい。「学び、創造、コミュニケーション」という整備の考え方をきちんと押さえる。また、ごみについてはリサイクルが初めにありきではなく、リデュース、リユース、リサイクルという形で社会を作っていくという意識啓発の拠点であるということが前提である。環境啓発については、先進的な活動をしている人が教えるというような段階からは次の段階に移るべき時に来ている。

家具などのリサイクルについては、例えば、家具そのものを展示しなくても、建築関係の学生などと連携しながら、インテリアの画像だけを表示しておいて注文を受けるといった方法もあり得るだろう。

- ・**委員** リサイクル機能は良いと思うが、展示・販売・リペアなどの機能をすべて入れることは現実的ではないので、一部にとどめることも考えられる。
- ・**会長** 具体的なプログラムというよりも、エコな低炭素社会を目指す上で自分たちの暮らしをどうデザインしていけるか、哲学や理念の部分について検討をして、行政に投げかけていくのが大事だろう。例えば、かつて東欧に視察に行った際、一般市民が自分なりのライフスタイルを持ち、自ら情報を集めて住まいやインテリアを構成していることが印象に残った。自分がどう暮らしたいのか考え、環境に配慮した暮らし方を学んでいくことが必要だろう。
- ・**委員** 市民にとって魅力あるエコプラザの方向性が出ればよい。今のクリーンセンターの存在さえ知らない市民が多い中で、エコプラザを多くの市民に利用される施設とするためには、もう少し議論が必要と感じる。
- ・**委員** 働く場所を作るといふのは一つの哲学になると考える。
- ・**委員** エコプラザだけで完結するのではなく、市民の生活にいかに影響を与えられる施設になれるかということが重要。市内で活動する諸団体と話し合いの場を持つことは考えられるか。
- ・**事務局** 運営は7年後なので、運営主体の決定は少し先になるが、市内で活動している団体の把握、現時点でのヒアリングの可否は事務局で検討したい。これまでに頂いたご意見については、今年度3月を目途に一旦まとめたいので、市として持ち帰り、次期以降の協議会に向けて活かしていきたい。

2. エリア整備、周辺整備の検討

- ・事務局より資料について説明。
- ・委員より緑町コミセンリニューアルについて提案があった。

(以下、質疑)

- ・**委員** 緑町コミセンは、現クリーンセンター建設の際に周辺住民から挙げた要望を元に建設された経緯がある。約30年前のクリーンセンターまちづくり委員会の中間報告においては、テニスコートは5面、野球場はセンターまで70mであったが、実際にできたテニスコートと野球場はもっと広くなり、その分緑町コミセンも小型になった。今回の整備に当たっては、原点に戻って30年前の報告も参考にして住民の意思をくみ取ってほしい。
- ・**会長** 当時の経緯も大切にすべき。また、緑町コミセンへのエレベータの設置の問題は重要だろう。個人的にはこれはエコセンター完成よりも前に早めに検討すべき課題のようにも思う。また一方で、ある時期に大量に建設されたコミセンをこれから如何に維持管理していくかは、費用面も含め今後の課題である。
- ・**委員** クリーンセンター街区は緑の拠点と位置付けられているが、都市公園で運動施設として位置づけられるのは、施設率が50%以下のものであり、現状では公園としては認められない。この街区を緑の拠点として謳うならば、何らかの対策を行う必要がある。千川などに繋がる拠点と位置付け、周辺との調和を考えるならば、樹種などはもう少しコンセプトは考えるべき。市内の他の開発への模範を示すためにも、敷地内で残せる樹木はできる限り残すべきである。
- ・**会長** 周辺まちづくりとの整合を取ながら、残せる樹木の選定、樹種の選定を進めていってほしい。各委員でも、この資料を元に意見を考えていってほしい。

3. 生活環境影響調査書説明会について

- ・事務局より説明があった。
- ・委員から説明会資料についての意見、質問資料について説明があった。

4. その他

- ・**委員** 実現できること、できないこと色々問題はあと思うが、クリーンセンターの建て替えを契機に周辺まちづくりについても是非進めていってほしい。
- ・**副会長** 限られたスペースに、いろんな要望を詰め込んだ状態なので、哲学を絞ったうえで、エコプラザの機能をどう絞っていくかということになる。全市民が対象ではあるが、例えば、その中でもターゲットとなる層を絞り込んで、機能の整理を行うことも一案だと思う。

以上